

# 縄文時代草創期の地形環境

## 武蔵野台地神田川周辺遺跡の立地から

Terrain Environment at the Initial Stage of the Jomon Period :  
Location of the Remains Around the Kanda River on Musashino Daichi

橋本真紀夫

HASHIMOTO Makio

はじめに

①遺跡層序

②武蔵野台地上における縄文時代草創期の土壌

③神田川中流域における縄文時代草創期の地形環境

まとめ

### 【論文要旨】

本稿は、遺跡の発掘調査により設定された遺跡層序に、縄文時代草創期に相当する層準を見出し、その層相や遺存状況などから、最終氷期の晩氷期における環境変動が遺跡の層序や地形に影響を与えている可能性のあることを述べる。古環境変遷や古環境復元といえば、これまでは大型化石も微化石も良好に保存された低湿地遺跡などで議論されることが多かった。しかし、最近の発掘調査では、詳細な自然科学分析やその測定精度の向上により、台地上の遺跡からも環境変動や変遷を窺わせる情報が検出されている。ここでは、武蔵野台地の遺跡調査において継続的に行ってきた立川ローム層の遺跡層序を対象として、重鉱物組成と火山ガラスの産状を分析することにより草創期の層準を特定し、地形環境を解析する。とくに台地から低地への斜面地や台地縁辺部での遺跡層序から推定された地形の変化や土壌の特性は、縄文時代草創期の環境変動の影響を受けやすい地形環境下であった可能性が考えられる。

【キーワード】 環境変動・地形変化・縄文時代草創期層準・指標テフラ・重鉱物組成極大極小